

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター
-------------------------

## ②施設・事業所情報

名称：横浜ルンビニー保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：渡邊 一明	定員（利用人数）： 122 名
所在地：横浜市泉区新橋町1175番1	
TEL：045-811-1312	ホームページ：runbiny@cameo.plala.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1971年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 龍吟会	
職員数	常勤職員： 19 名 非常勤職員 14 名
専門職員	保育士 24 名 栄養士 1名
施設・設備 の概要	保育室 6室 遊戯室（ホール） 1室 調理室 1室 事務室 1室

## ③理念・基本方針

## 保育理念

1人ひとりの個性を大事にしながら、心身ともに健やかなのびのびとした園児を育てる  
保育方針

- ・ 仏教保育を基本とし、園児の心身の発達を助ける
- ・ 様々な経験を重ねることで、子どもたちの感性を育む
- ・ 安心した保育を提供し、家庭とともに成長を喜び合う

## 保育目標

- ・ 生き物を慈しむ心を育む
- ・ 他人を思いやる心を育む
- ・ 我慢のできる心を育む

## ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・ 昭和12年に春秋2季農繁期託児所として開所した歴史ある保育園です。昭和46年5月に横浜市の認可保育園となり横浜ルンビニー保育園となりました。旧園庭跡地を含めた1534㎡ある広い園庭に加え、園舎前の芝生の広場、遊具が設置された乳児用の小園庭があり、年齢や目的に合わせて使い分けています。また、隣接する観音寺の起伏のある広い境内では季節折々の自然に触れることができます。3階には、広い遊戯室があり、子どもたちは天候に関係なく思いっきり身体を動かす楽しさを味わうことができます。
- ・ 仏教保育を基本とした仏教保育カリキュラムに沿った保育を行ない、子どもたちが豊かな心を育めるように支援しています。毎週の礼拝では、その時の生活の場(面)に合わせて気持ちの切り替えができること、静かに参加ししっかりと話を聞くことを身に付けています。
- ・ 小さい時から「お話」を聞かせ、言葉の繰り返しのもの、長いお話、絵本、肉声のみ

のお話などから、想像する楽しさを知ることができるようにしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年 6月 10日（契約日） ～ 2020年 11月 10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

#### ⑥総評

◇特に評価の高い点

##### ◆子ども主体の保育の実践

保育理念に基づき、子ども一人ひとりの個性を大切にされた保育を実践しています。保育士は子どもの問いかけや言葉に丁寧に対応し、子どもの気持ちを受け止めています。デイリープログラムは一斉保育と自由保育をバランス良く組み合わせ、活動の合間には園庭や遊戯室で思いっきり身体を動かすことができます。製作などの一斉活動では、子どもが自分からやりたいという気持ちになるように時間をかけて取り組んでいます。子どもの声も取り入れていて、訪問日にも、5歳児のお化け屋敷ごっこで子どもたちの自由な発想が広がっている場面を見ることができました。

##### ◆子どもの成長を長い視点でとらえた連続性のある指導計画

指導計画は5歳児までの目指す姿を考慮したカリキュラムとなっていて、年齢に応じて少しずつ積み上げていく連続性のあるものとなっています。例えば、礼拝では、小さい時から少しずつ見て、覚えて、あこがれて、やってみてと積み上げていき、5歳児になると落ち着いて自信を持って参加しています。毎月の評価・反省がきちんと次期の計画に反映していて、子どもの状況に合わせた柔軟性のあるものとなっています。テーマを決めて、段階的に遊びながら基礎を積み上げていき、一人ひとりの頑張り認め子どもの得意なものを伸ばせるように支援しています。

##### ◆働きやすい職場環境作り

園長・主任は個人面談などを通して職員一人ひとりの意向や家庭の状況を把握し、働きやすい環境作りに努めています。職員間のコミュニケーションがよく、有休取得などではお互いに配慮しあえる関係ができています。また、産休復帰後や小学校入学直後など子どもの状況に応じて勤務時間を固定制にし、子育てと両立できるように配慮しています。平均勤務年数が12年と長く働き続ける職員が多く、安定した保育につながっています。

◇改善を求められる点

##### ◆職員が参画しての事業計画の策定

行事計画や保育の基本となる仏教保育カリキュラムは作成していますが、人材育成、リスクマネジメントなどの項目ごとに事業計画としてまとめることはしていません。年度末の職員会議で保育面での課題とその改善については話し合っています。運営上の問題については必要に応じて園長から職員へ発信していますが、共有するまでには至らず今回の新型コロナウイルス感染対策での職員との話し合いを通し、様々な課題が明らかになっています。今後は、職員も参画して意識のすりあわせをし、課題と改善策を事業計画としてまとめ、方向性を共有して取り組んでいくことが期待されます。

##### ◆マニュアルなどの文書化の取組

園での経験が長い職員が多いこともあり積み上げられた経験値によって業務が行なわれている部分があり、業務マニュアルやチェック表などの作成、見直しがなされていないものがあります。保育の質を保ち、さらに向上させるためにも、職員の交替、人材の確保・育成に備え長い歴史の中で培ってきたノウハウをマニュアルなどにまとめていく

ことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回初めての第三者評価機関の受審をしました。各自己評価の検討に多大な期間と時間を必要としました。全職員が参加しクラスでの話し合いから始まり、乳児クラス・幼児クラス単位での話し合い、そして保育園全体での話し合いへと進め、最終的な保育園での評価を行いました。保育を行いながらの検討なので、当然勤務時間内では収まらず、業務を終えてからの会合にもなり職員の負担そしてコストの負担がかかることとなりました。このような中で検討をしながら、現在の問題点、今後の課題等も浮かび上がってきたので、現在取り組み始めているところです。当園の保育理念・保育方針に沿って運営しながら、保護者が安心して預けられる保育園とすることが、今後の安定した保育運営に繋がっていくことと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり